

2024年5月15日

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ
三菱 UFJ 信託銀行株式会社
三菱 UFJ アセットマネジメント株式会社

新興運用事業者向け出資枠の設定について

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ（代表執行役社長 亀澤 宏規、以下 MUFG）、三菱 UFJ 信託銀行株式会社（取締役社長 長島 巖、以下 三菱 UFJ 信託銀行）および三菱 UFJ アセットマネジメント株式会社（取締役社長 横川 直、以下 三菱 UFJ アセットマネジメント）は、2024年1月15日付「三菱 UFJ フィナンシャル・グループの資産運用ビジネスの取り組みについて」で公表していた EMP プログラムの取組である、運用人材育成プログラム（MUFG 版グローバル EMP）に加えて、新たに新興運用事業者向け出資枠を設定いたします。

1. 本取組の考え方

経済成長や国民の資産所得の増加にあたって、資産運用業が果たす役割は益々大きくなっています。MUFG のアセットマネジメント事業では、お客様の様々なニーズに応じて多様な運用商品を提案すべく、自社運用商品のみならず外部提携商品の充実や品質向上に努めています。

一方、日本では、既存の運用機関が持たない新たな運用手法や優秀な運用人材を擁していても、トラックレコードが無いことをもって新興運用事業者が運用資金を獲得できず、結果としてお客様の運用商品の選択肢が限られてしまうとの課題が指摘されています。

MUFG のアセットマネジメント事業では、お客様により良い商品を届けることを目的として、外部提携商品の選定で培ってきた資産運用事業者に対する目利き力を活かし、業歴や過去の実績の有無に関わらず、幅広く社内外の運用事業者が運用するファンドを対象に出資する取組を進めます。本取組を通じて、新興運用事業者がトラックレコードを蓄積した後に、お客様向け商品の拡充につなげていくことで、MUFG の運用力向上を目指すとともに、政府が掲げる「資産運用立国」の実現にも貢献して参ります。

2. 取組内容

MUFG のアセットマネジメント事業は、2019年から国内プライベート・エクイティのファンド・オブ・ファンズを運用している日本で最大級の運用者です（累計出資・運用残高 550 億円）。今回、投資事業有限責任組合を通じて、トラックレコードの無い新興運用事業者が運用するファンドへ出資する枠組みを新設し、国内新興プライベート・エクイティファンドから検討を開始します（当初設定枠約 50 億円）。

今回の取組では、三菱 UFJ 信託銀行、三菱 UFJ アセットマネジメントの自己資金を活用することで新興運用事業者がトラックレコードを積み上げ、お客様向けの商品化を目指します。今後ヘッジファンドやコモディティ等、既存の資産運用機能と補完が見込める領域に出資対象を拡大することで、新興運用事業者の育成に貢献するとともに、お客様への商品提供力の強化につなげて参ります。

以上